

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 2月号

2015年2月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：松永 理恵（沖縄協同病院）

～26年度短期MSWリーダーシップ研修受講して～

勝山病院 山城 つきえ

全国から50名のMSWが参加し、SWの倫理、業務記録、地域連携、他職種協働、災害時の役割等の研修を8分野5日間にわたり沖縄県の代表として受講させていただきました。講義とグループワーク、研修の成果発表などを通し他地域のMSWとの有意義な情報交換、交流もできましたので、報告いたします。

MSWの倫理ではヒューマンサービス専門職の価値として、SWは現実的であるために哲学的でなければならない。①人間尊重②人間の社会性に対する信念③変化の可能性を目標とし、その手段として「MSWの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領」に具体化されている。2025年の地域包括ケアに向けては統合型ケアアプローチでシームレスで効率性をあげるため、ケアと資源の適切な目標化、異なる専門職間のアセスメントと処置の重複をさける、ケアのパス導入によりコスト、ケアの統一化などがポイントで患者様へのケアの継続性、質、アウトカムが重要とされる。MSWの果たす役割は生活モデルの視点を大切に、自院の特徴を踏まえ、経営に役立つ視点も考慮し、医療職チーム、地域の福祉行政職、介護関連職等をつなぐ役割を担うことが必要とされる。医療現場のプロジェクト評価ではSWの構造化が求められるとして日業業務の評価が必要で、P（目標設定）D（実施）C（評価）A（アクション）サイクルの提案あり。医療関連の「結果」評価は難しいが、アウトプット（量）アウトカム（成果）（生活が改善される）の測定が必要と考える。評価は継続的な改善、組織の活性化が目的とされる。2001年のヘルスケアシステム（米）においての期待される視点は①安全性②有効性③患者中心性④適時性⑤公平性⑥効率性⑦内部顧客（職員満足度）で、リーダーの役割として意識して業務に携わることを再認識しました。

全国の仲間とグループワーク等をおこない、業務の悩みや組織の中や地域で取り組んでいる事など様々な情報交換ができ、反省点の気づきや活力を（名刺も）たくさんもらいました。地域包括システムなど福祉医療改革の中で、研修で習得した知識、技術、またMSWのリーダーとしての役割を發揮できるよう取り組んでいきたいと思えます。



CONTENTS

26年度短期 MSW リーダーシップ研修参加報告	1
1月定例会報告	2
26年度初任者研修会報告	3
新入会員紹介	4
コラム	5
運営委員会報告	6~7



1 月定例会報告

長田 しのぶ（沖縄赤十字病院）

1 月 14 日（水）北中城若松病院にて開催された定例会へ参加しました。今回の定例会は脳外傷患者と家族の想い。～MSWへの期待と要望～ というテーマで、脳損傷友の会 ゆい沖縄より事故で高次脳機能障害が残った当事者、そのご家族である系数さん親子から病院での闘病生活中の心境、ソーシャルワーカーへ求めること、就労継続支援事業所 ゆい沖縄の開設から現在の活動状況についてお話してくださいました。事故で息子が入院されて大変だったこと、今までの生活が出来なくなる事での将来への不安、病院退院後もリハビリをさせたいと言う思いなど、ソーシャルワーカーはとても辛い時に本人・家族の思いを聞いて、心を支えてくれたとても大切な存在だったと話をされていました。

病院退院後も更生相談所での集団リハビリへ参加、養護学校へ通学、県外のリハビリセンターへ通う息子を側で支え続け、高次脳機能障害者の家族会を立ち上げ、同じ思いを抱える家族と協力し、就労継続支援事業所 ゆい沖縄の設立へ繋がりました。息子の回復を願う思いから、高次脳機能障害がある方達への活動、就労支援の場を作ることが出来た系数さんの行動力をとても素晴らしく思いました。

ゆい沖縄設立にあたり同じ体験をした当事者、家族からも入院中に医者、看護師からの治療の説明が分からなくて困る。障害が残ってしまった事を受け入れられない。どの様な制度やサービスが利用できるか教えてほしい。など、分からないことが多く不安な気持ちでいる方がたくさんいる事を伝えられました。その様な時に、ソーシャルワーカーが家族の思いを聞いて向き合っていく事がとても大切だと事を気づかされました。そのことから、私も日々の業務の中で、たくさんの方たちとの関わりの中で業務の忙しさに終われ、患者、家族の思いをきちんと傾聴できず対応している事もあったと振り返り反省しました。今回、系数さん親子の体験談を聞きこれからの業務のなかで患者、家族との関わり方を再確認することができました。



平成 26 年度 初任者研修会（前期）報告を終えて

沖縄協同病院 玉那覇 夏汀

1 月 18 日（日）ハートライフ病院で行われました、初任者研修に参加させて頂きました。初任者研修は実務経験 3 年未満の医療ソーシャルワーカーが、基礎的な知識・技術を目的とし、日頃の実践につなげていく機会にすることを趣旨として行われました研修会です。9 人の参加者の中、1 年未満の参加者は私 1 人。緊張しながら研修は始まりました。

1 番目の講義は中部病院・神経内科、金城正高先生による「医学講座」でした。身近な病気である生活習慣病について基礎の基礎から教えていただきました。特に「血圧・血糖・コレステロール」の 3 つについて、数値の読み方から、基準値を外れる理由など詳しく説明をしていただきました。そして自分自身の食習慣・運動習慣を振り返り「私は将来生活習慣病になるのでは？笑」と考えてしまいました。医学用語は難しいですが、体の中で起きていることを関連させていけば、覚えやすくなるのではと思いました。

2 番目の講義是那覇市立病院・樋口さんによる「医療ソーシャルワーカーの歴史」「病院組織とソーシャルワーカー業務の運営管理」でした。自分自身の所属する病院・組織は、いかなるものなのかを調べることで、組織における医療ソーシャルワーカーの位置付けを認識することが出来ました。また、グループに分かれ、それぞれの病院での医療ソーシャルワーカーの位置づけについて話し合いました。医療事務の中に地域連携があるところや、地域連携として部署が置かれているところなど、病院によって違いがあることを知りました。

3 番目の講義は大浜第一病院・當銘由香さんと、中頭病院・秦克之さんによる「記録・アセスメントについて」でした。相手への尊敬と謙虚な気持ちを持ちつつ、必要な情報を集め、分かりやすく記録に残す。日々の業務で気を付けていることでしたが、今回の講義でポイントや注意点を教えていただき、さっそく翌日から実践しています。やはり難しいなと感じています。初めての研修会の参加でしたが、講師の方も丁寧で優しく、とても勉強になりました。この研修で学んだことを考えながら、日々の業務に反映していきたいと思っています。

講師の皆様、ありがとうございました。



新入会員紹介

南部徳洲会病院 医療福祉相談室 新城有紀

南部徳洲会病院回復期リハビリテーション病棟担当の新城です。患者様が安心して在宅復帰できるよう、主治医・リハビリセラピスト・看護師・介護士と共にチームを組んで支援しています。

当該病棟の患者様は、主に院内一般急性期病棟から転床してきますが、昨年5月に1名、更に11月に1名、リハビリテーション科の医師を迎え、他院からの患者様受け入れにも注力しています。今まで以上に近隣病院の皆様にお問い合わせいただければ幸いです。

ここで、担当MSWの業務を一部紹介します。回復期はカンファレンスの数が多いのが特徴ですが、当院では一口にカンファレンスと言っても、患者様入棟当日にスタッフ間で申し送りをする「入棟カンファレンス」、担当看護師が患者様入棟後1週間以内に設定するスタッフのみの「初回カンファレンス」、スタッフのみの「スタッフカンファレンス」、主治医と家族との「主治医面談」、スタッフと家族のみの「家族カンファレンス」があります。MSWは、入棟カンファレンス以外全てのカンファレンスに出席し、患者様のアセスメントに努めます。加えて、週2回の回診では直接主治医と話し合い、退院支援計画を組み立てていきます。

これまでのところ、部署長はじめ先輩や同僚、他職種スタッフの助力を得て日々の業務に取り組んでいます。早く自分だけの力で課題解決できるよう、これからも経験値を重ねていきたいと思っています。



コラム●ある日の相談室●

担当：H・T

「畑に水やりをしないといけない」

Aさん（男性）71歳は脳梗塞発症後、リハビリ入院された方です。

急性期病院からリハビリ目的で紹介され、いつもの様にアセスメントを取りに病棟へ。

病室へ伺うと、酸素使用し車椅子に乗っている80代の女性と私服を来て立っている男性。

（あれ？Aさんは男性じゃなかったかな・・・？）

話を伺うと、80代女性は姉でAさんのキーパーソン。私服で立っている男性がAさん。

Aさんはアパート2階で独り暮らし。歩行にフラツキがあり姉が心配し転院したとの事。

「俺は大丈夫！！今から家に帰る！！」「何が大丈夫かー！あんたフラフラしてからに！」

目の前でお互い言い合いが始まりました（どうしよう・・・苦笑）。

2人をなだめながら、主治医に確認し介護保険の説明・申請の手続き案内をし、今後の流れとして一週間後に家屋の訪問調査、初回面談を調整。その中で相談して行く事になりました。

次の日、病棟主任からAさんが相談したいと話しているとの事から病室へ。

Aさん「畑に水やりをしないといけない。帰りたい」との事。昨日話した流れを再度確認し、了承された様子。畑は家屋調査後に姉と相談して見に行く事に。

（初回のアセスメントで畑で野菜を育てていたのは聴いていたが身体より畑・・・）

一週間後、家屋調査を行い、アパート2階はフラツキながらなんとか可能であるが、転倒のリスクはあると評価。その後、主治医と面談。面談の中で食生活が不規則、服薬をしっかりと飲めるか話が出るもAさんは「大丈夫です！できます」の一点張り。姉も根負けし急遽明日、自宅退院の方向へ（あ、明日！？えー、汗）。本人・家族へ了解を得て急いで情報をまとめ地域包括支援センターへ相談。明日の退院後、職員が訪問する事で調整。面談翌日、退院する際、Aさんと話すと「今から自転車に乗って畑に行くさー」との事。Aさんはタクシーにのりながら笑顔で退院していきました。

後日、地域包括支援センターへ連絡しAさんの状況を確認すると、転倒はしていないが、食事は惣菜を食べ栄養が偏りがちなので配食サービスを検討中との事。畑の事を聞くと、自転車にのり毎日畑に行っている様ですよとの事。

（本人にとって畑が楽しみで生甲斐なんだろうなー・・・）

コラムを書きながら今はどんな野菜を作っているのかなーと思う今日この頃・・・



平成27年1月運営委員会議事録

開催日時：2015年1月19日（月）18:55～

出席者：樋口、又吉、當銘（司会）望月、新城、新垣、安慶名、伊禮（記録）

研修部より：望月（ハートライフ病院）

■定例会

日時：2月28日（土）9:00～17:00

場所：沖縄国際大学

内容：「第3回沖縄県ソーシャルワーカー学会&公開セミナー」に振り替え。

■めだかの放課後

日時：平成27年2月5日（木）19:00～20:30

場所：中頭病院2階会議室

内容：学会・社会福祉公開セミナー開催の確認
学会発表演題「めだかの放課後報告」の予演会
次年度の計画打ち合わせ

■めだかの学校

日時：平成27年2月17日（火）19:00～20:30

場所：ハートライフクリニック

内容：「介護老人保健施設・特別養護老人ホームについて」

講師：伊禮智則（那覇市立病院）



■勇美財団の研修会

テーマ：「地域包括ケアと在宅看取り」

講師：大湾氏（県立看護大学教授）

研修形態：講義 1時間

シンポジウム 1時間

ワークショップ 1時間

参加人数：ケアマネ50名・MSW50名 合計100名

開催月：4月

協会外への参加費用 500円

広報より：新城（小禄病院）

- ・ 広報紙・・・2月号担当：松永理恵（沖縄協同病院）

県SW協議会 社会福祉公開セミナーの件

- ・ 次回会議 1月23日（金） 場所：那覇市立病院
- ・ 演題 15題→スライド提出は1月末の締め切り
- ・ セミナー講師3名決定

事務局：當銘（大浜第一病院）

- ・ 入会6名
- ・ 退会1名
- ・ 今年度会費未納者催促予定



その他

- ・ 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会「第2回在宅医療連携システム構築に関わる小委員会」が12月18日(木)19:30開催された。
議題：急性期から在宅・介護までの情報提供のあり方等について
「医療情報参照機能」について
次回：1月22日（木）19:30
- ・ はいさいワーク・・・順次広報紙とホームページでアップ
- ・ 2月22日（日）平成26年度がんフォーラム「がんと就労」

次回理事会：2月16日（月）18：30～

司会：新垣 書記：石郷岡 連絡係：島袋

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

編集後記



原稿を快く引き受けてくださいました皆様、ありがとうございました。初めてのニュース担当で、ドキドキ・はらはらしながらも、Y先輩の助けの下、どうにか無事完成することができ、ほっとしています。(Y先輩ありがとうございました。)次回担当がまわってきた時には、もっとスムーズに対応できればと・・・(^_^;)年明けから、インフルエンザが蔓延し、退院調整に苦戦中です。患者様にうつさない為にも、皆様予防を頑張りましょう!!ちなみに私事ですが、ここ20年ほどインフルエンザ罹患せず!記録更新続けられるよう頑張りたいと思います＼(^o^)/♪